

Users voice

# わが家の キャンピングカーライフ

気になる!! お隣りの  
子育てキャンパーに  
ちょっと聞いてみました



## CASE 1 塚崎眞澄さんファミリー 東京都在住 43歳

### キャンプで “生き抜く力”を養わせる

塚崎さん一家の愛車は、キャブコンタイプの軽キャンピングカー。7歳のご長男を筆頭に、5歳、3歳のお子さんがいらっしゃる。

「うちは七五三なの」

と奥さんが明るく笑う。



塚崎さん家族が、昨年そのキャンピングカーを使って旅行した回数は7回。特にフェリーで佐渡島まで行き、全島を一周したことが思い出になっている。道の駅などで休憩をとることもあるが、泊まるのはキャンプ場が多い。

ご夫婦とも、子育てに関してしっかりした方針を持っており、「キャンプを通じて子供たちに“生きる力”を養わせたい」という。

【奥様】 やっぱりキャンプを経験している子供はサバイバルする力がつくと思うんです。いざとなったら魚でも野草でも自分で探して食べる力をつけていかないと、苛酷な時代が来たら生き延びていけないと思います。

【ご主人】 僕は釣りをするので、釣った魚は子供たちにさばかせているんです。生きていけるハゼなども、自分で包丁を入れて、内蔵を出させてね。生きているところから扱わせると手応えが違うし、それを食べるときに“命の重み”も分かってくるように思うんですね。

【奥様】 うちは「虫を捕まえたら、その虫が死んでもしょうがない」という考え方の家族なんです。本当にしっかり観察しようと思ったら、足が取れたり、羽がもげたりすることはないでしょ？ でも、そうすることによって虫の生態とか構造のようなものがはじめて分かるんですね。観察中にあっけなく死んでしまえば、命の“はかなさ”も理解できるようになるのでは？

虫でも魚でも、「殺しちゃいけない」と親御さんたちが言う気持ちも分かりますけど、うちは逆に、生物が簡単に死んでしまうことを子供たちに教えないんです。

【ご主人】 そうそう。だから「リセット」という言葉は使えないんですよ。そこがゲームとは違う。ゲームはリセットできるけれど、自然はそういうことができない。

【奥様】 このまえ幼稚園の亀が死んだとき、いつもゲームをやっている一家の子が「リセットすればいいじゃない」って言ったんですって(笑)。そういう子は、カブトムシの足がもげると、親に「パーツが足りなくなったから足のパーツを持ってきて」と言うらしいんです。今はそういう世の中になっているんですね。

【ご主人】 うちの次男などは、カミキリムシの顎にわざと自分の指を咬ませているんです。でも、それで「痛さ」を実感したらいい(笑)。海では、大きなカニのハサミに指を挟ませたりね。そうやって、生物の生態を覚えていくんでしょうね。ザリガニでも、トカゲでも、何でも触りますよ。

このように、お子さんと積極的に自然体験を積まれている塚崎さんファミリー。キャンプが楽しいのは、「親が楽をできる遊び」でもあるからだという。

【奥様】 子供というのは放ったらかしておいても、自分たちで遊びを見つけるんですね。親はその間“手を抜ける”。親が楽をできるキャンプが一番です。

【ご主人】 子供は、本当に未知の可能性を持っていますね。どんな場所でも、子供たちは必ず自分たちが面白いと思った遊びを発見します。きっと、私たちもそうだったんでしょうね。それを忘れてしまっている。だから子供から教えられるものが多いです。

## CASE 2 矢澤栄一郎さんファミリー 東京都在住 44歳

### 家族で協力し合う キャンプ旅行

矢澤さんファミリーが家族3人で水入らずの旅行を楽しむクルマは、比較的取り回しの良いライトキャブコン。

自宅からもアクセスの良い山梨県や長野県を回ることが多い。特に、風光明媚で温泉もある八ヶ岳周辺がお気に入りだが、去年は待望の北海道旅行を果たした。

さっそくお嬢さんの詩織ちゃん(13歳)に「くるま旅」の印象を尋ねてみた。

【記者】 キャンピングカーのどんなところが好きですか？

【お嬢様】 いつでもどこでも、眠くなったら寝られるというところですか。

それについてお母さんが補足。

【奥様】 普通の乗用車でも寝られないことはないでしょうけれど、しっかりしたフルフラットのベッドがあって、疲れて眠くなったらすぐ寝られるというのが子供には一番ありがたいのではないのでしょうか。

キャンピングカーがあれば、親がのんびりできる。両親がのんびりできれば、子供にもそれが伝わって、子供ものんびりした気分になれる。

そのために矢澤さん一家は、キャンプ地での料理の下ごしらえなどは家族全員が協力し合って、お互いの負担を軽くするという。

【奥様】 娘は、家ではなかなか手伝ってくれないようなことでも、キャンプでは率先してやってくれるんですね。たとえば野菜を切ったりしていると、「私もやりたい」と向こうから声をかけてくれます。ありがたいですよ(笑)。



それにキャンプ場などでは、バーベキューをしたり、焼き肉を焼いたりというように、日頃家ではあまりやらないような調理の仕方が楽しめるじゃないですか。それが家族の絆を深めますね。それに自然の空気を吸っているだけで、食欲が増進するし、健康にもいいです。

詩織ちゃんに質問してみた。

【記者】 キャンプに行ったときのお父さんとお母さんは、家で見ているときとはどこか違って見えませんか？

【お嬢さん】 ……言っているのかどうか、分からないんですけど(笑)、家であんまり動かないお父さんが、キャンプをしていると、椅子やテーブルの準備をしたり、すごく張り切っているのが分かります。お母さんも、料理するときは張り切っているの、お手伝いしたくなってしまいます。

矢澤さんファミリーは、子供をキャンピングカー旅行に連れて行って良かったという。日常生活とは違った景色に接し、違った体験をさせることで、子供の世界が広がっていることが会話などからも分かるそうだ。

ただ、その詩織ちゃんも今年は中学生。学校の行事や部活などで時間を取られるようになるだろうから、一緒にキャンプについてきてくれるかどうか。それがちょっとさびしい…と奥さまは胸のうちをチラリ。

**CASE 3** 佐田千寿さんファミリー  
神奈川県在住 46歳

キャンプに出ると  
親子の会話が増える

佐田さんファミリーのキャンピングカーは、マイクロバスをベースに架装を施したセミフルコンバージョンである。キャンピングカーに乗る前はテントキャンプを十分に楽しんできた。だから、キャンピングカーを手に入れてからも、そのキャンプスタイルは、テントキャンプ時代の「自然に接する」という側面を大事にしたものであるという。

小さい頃から自然の中で遊ぶのが大好きだったというご長男の妻人(あやと)君(中学1年生)にインタビューしてみた。

【記者】 キャンプしているときは、どんな遊びが面白いと思いますか？

【ご長男】 やはり自然の中でいろいろな「遊び」を探すのが楽しかったですね。僕の場合は、特に木登りが好きでした。

【記者】 キャンプに行ったとき、お父さんお母さんは普段とは違って見えましたか？

【ご長男】 あ、すごく違いましたね。いつも見ている父よりもやっぱりたくましく思えました。特に印象に残っているのは、はじめてキャンプに行ったときテント張りを手伝われたんですけど、ヘグの打ち方を間違えたら、父が何もいわずに、慣れた手つきでヘグを打ち込んで見せてくれたんですね。そのとき「あ、カッコいいな」と思わず見直しました(笑)。

そのお父さんに、妻人君のキャンプライフをどう感じているか、尋ねてみた。

【ご主人】 やっぱり自然の中で、火の熾し方とか、ナイフの使い方などを学んでくれたことがよかったと思いますね。小さいうちからそういうものを学んでくれたので、下の女の子2人を自然の中で遊ばせるときも、ということが危険なのか適切な判断をしています。

そこで、妻人君に「家族キャンプ」のよいところを挙げてもらった。

【ご長男】 やっぱり日頃親にはあまりしゃべれないことでも、キャンプをしているとしゃべれることがいいと思います。

【記者】 どんなことがしゃべれますか？



【ご長男】 たとえば学校のことや、…家ではちょっと話づらい微妙な問題も、キャンプをしていると心が楽になるというか…ついついしゃべってしまいますね(笑)。

それを補足して、お父さんが語る。

【ご主人】 やはりキャンピングカー旅行をしている家族というのは、たぶん普通の家族よりも、親子が接する時間が長くなると思うんです。その分、意思の疎通が生まれるように思います。家の中では照れくさいような話題も、フィールドに出ればお互いに自然に話し合ってしまうですね。

佐田さんファミリーは、キャンピングカーを購入してから、さらに親子が話し合う時間が多くなったという。その理由を奥さんが語ってくれた。

【奥様】 テントだと、やはり雨の日の設営や撤収が大変だったんです。特に雨の日の撤収となると、夫婦とも早く片づけてくたてイライラするために、時には夫婦喧嘩を起こしたり…。

でもキャンピングカーになってからは、設営・撤収に時間が取られなくなった分、ずいぶんゆとりが生まれましたね。だからその時間を、子供たちと川で遊んだり、イベントに参加したりする時間に割けるようになりました。

そのため私の株も上がったし(笑)、私自身も楽しい。キャンピングカーを買ってからのほうがフィールドに出る回数が増えました。

佐田さん一家がかもし出す和気あいあいとした雰囲気は、まさにキャンピングカーから生まれたものという実感がひしひと伝わってきた。



巻末コラム  
子供の遊びには動物進化のプロセスが反映している

子供はなぜ遊ぶのか。

それに対しては、「剰余エネルギー説」「気晴らし説」「本能説」など、さまざまな学説があるという。

しかし、最近、「子供の遊びというのは、動物進化を追体験している」という面白い仮説が登場している。これは子供が、幼少期、学童期に至るまでに好む遊びのスタイルが、そのまま生物進化のプロセスをなぞっているというところに注目して生まれた説だ。

動物は、まず魚類として海で進化を極め、次に陸に上がって、両生類、は虫類、ほ乳類というような複雑な進化を遂げたとされるが、胎児が母胎の中にいるときの体形が、まさにこのプロセスをたどっていることはよく知られている。

ところが、産まれてからも、人間の子供はこの進化の過程を短期間に反復しているという。

たとえば、子供が好む水遊びは、魚類時代の活動を反映したものであり、泥遊びは、カエルなどの両生類の習性を連想させる。はいはいするような“腹すり遊び”は、トカゲなどの爬虫類。さらに長じて、隠れんぼなどに興味を持ってくると、そこにネズミのようなほ乳類の嗜好が見え隠れする。また子供は概して木登りが好きだが、そこには猿人の性向がうかがえる。

人のDNAの95%は、人の遺伝子として使われておらず、残りの部分には生命誕生からの進化の情報がすべて書き込まれているという。そう考えると、子供の遊びは、動物として生きるための機能を学習するためのものであるという見方もできる。子供が求める遊びは「自然」のなかで見つけられるものが多く、幼少期に自然に親しませるといことが、生物としての人間を健全に発達させるといえるのだ。



皆様からのご意見・ご感想お待ちしております

今回の「くるま旅Vol.7」はいかがでしたか？ 皆様の素敵なくるま旅の参考になれば幸いです。また事務局では皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。「こんな事が知りたい」「こういう特集をやってほしい」などのご要望や、「〇〇道の駅のは美味い」「私の★★★キャンプ場」「こんな動物と出会った」等々、あなたのくるま旅のエピソードをお寄せください。写真も大歓迎です。十人十色のくるま旅のお話を聞かせて下さい。採用された方には粗品を進呈します。

宛先 〒194-0022 東京都町田市森野1-10-10 ペアシティエンドウビル2-A  
日本RV協会事務局「くるま旅編集部」まで

くるま旅 Vol.7

- 発行 一般社団法人 日本RV協会 (JRVA)
- 編集 株式会社自動車週報社
- 印刷 図書印刷株式会社

〈無断転載を禁ず〉  
2011年2月1日発行 Printed in Japan 2011